

明治二十年十一月分

法令類纂
第十一號

宮城縣文書課

一本書ハ毎月初其前月中奥羽日々新聞紙官報縣報欄内ニ掲載シタル諸法令ヲ編纂スルモノトス
但告示諸達中一時ニ止マリ後來ノ參照ヲ要セサルモノハ其要領ヲ目錄欄内ニ摘記シ圈點ヲ
冠シテ之ヲ區分シ別ニ全文ヲ掲載セス

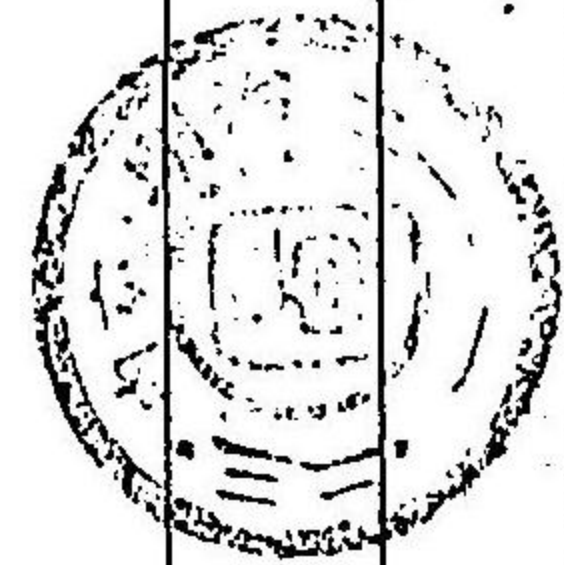
一本書ハ從來例規目錄ニ從テ類目編纂セシト雖モ時日甚タ遷延ニ涉ルノ恐レアルヲ以テ唯ダ
其目錄ノミ類別シ其下ニ丁數ヲ付シ本文參照ノ便ニ供ス

一何指令照會通知并ニ報告類ト雖モ必要ト認ムルモノハ亦ダ其部類中ニ併セ録シテ以テ參考ニ
唯供ス

No 3114

法令類纂目錄 明治二十年
十一月

閣省官制官規



閣省官制官規	閣二號令	二十一月	福岡大林区署管轄區域中佐賀縣追加	一	丁
詞法省令	甲第三號令	二十一月	登記所位置管轄區域表中改正	一	丁
勅令	第五十七號令	五十一日	試補及見習ノ待遇並ニ任用方	六	丁
勅令	第五十八號令	五十一日	技官技術官ノ資格ヲ有スルモノヲ以テ行政官ニ任用スルヲ得	七	丁
閣令	第二十三號令	七十一日	文官試驗試補及見習規則第二十九條在職判任官ニ直ニ本官ニ任スルヲ得ル者ノ制限ヲ定ム	八	丁
勅令	第五十九號令	四十一日	奈良縣設置	十	丁
府縣會	本縣告示	第五十一日	臨時縣會開會	一	丁
內務省訓令	第四十九號令	十一月十八日	尋常師範學校附屬小學校授業料收入豫算ハ府縣會ノ議定ニ付セシム	二十五	丁

本縣 示 廿五日 臨時縣會閉會 二十六丁

區町村會

內務省訓令 十一日 區町村公共ノ經濟ニ關スヘキ共有物件ハ渾テ區町村會ニ於テ評決セシム 六丁

宮城縣訓令 十一日 全上 十丁

賞與賑恤

海軍令 十一月一日 本年(一月)省令第三號海軍下士卒家族扶助金給與規則 第二十六丁

財產 財產管理身代限處分

宮城縣訓令 十一月十八日 租稅不納ニ係ル物件ニ關シ賣買讓與等給テ所有權ノ移轉ニ就キ登記ノ有無ヲ取調フルルハ其物件所在地所管ノ登記所ヘ照會取調フヘシ 二十丁

衛生

宮城縣訓令 十一月十七日 避病院及吐瀉物汚穢物埋燒場設置手續ヲ定ム 十五丁

全縣訓令 十一月十七日 針灸術營業取締規則ヲ改ム 十七丁

兵制

宮城縣訓令 十一月十日 陸軍召集條例第六十五條ニ據リ差出スヘキ本年十一月十日ヨリ來二十一年五月九日ニ至ル召集旅費概算表 一丁

調製方ヲ示ス

全縣訓令 十一月八日 前召集旅費概算表ニ郡管轄ノ那役所ニ於テノ調製方ヲ示ス 六丁

海軍令 十一月八日 海軍軍樂員條例第十三條中刪除 八丁

全縣訓令 十一月十四日 陸軍教導團定員表砲兵大隊ノ區畫及ヒ工兵中隊ノ區畫中改正 十一丁

宮城縣訓令 十一月十九日 本年(十月)訓令第七十五號陸軍定時演習召集事務取扱細則第一條中第十條ノ下第十九條ノ四字ヲ追加ス 二十五丁

土木 河港道路堤防橋梁

內務省告示
第七號
廿八日

東京ヨリ奈良縣ニ達スル國道路線ヲ定ム

二十七丁

船車

遞信省告示
第九十五號
十一月八日

三則一等運轉手免狀流失

全告示
第二百一十一號
十一月十五日

西洋形船ニ信号符号點付

郵便

遞信省告示
第九十號

尾張國稻葉郵便局改稱

遞信省告示
第九十二號

定時刊行印刷機ノ第三種郵便取扱ノ認可ヲ出願スル者ハ願書ニ見本ヲ添ヘ差出サシム

遞信省告示
第九十三號

伊勢國四日市郵便局及ヒ電信局合併

遞信省告示
第九十六號

磐城國小平岩代國西方山木屋郵便局及ヒ横田村郵便受取所廢止

遞信省告示
第九十七號

岩代國横田郵便局設置

遞信省告示
第九十八號

羽後國西大館郵便局改稱

遞信省告示
第九十九號

陸中國長坂村本郷郵便局改稱

遞信省告示
第一百號

能登國二ツ屋郵便局移轉改稱

遞信省告示
第一百一號

加賀國高松郵便受取所移轉改稱

遞信省告示
第一百二號

肥前國浦上山里郵便局外二十九局廢止

遞信省告示
第一百三號

肥前國二本楠郵便局外六局設置

遞信省告示
第一百四號

肥前國島原郵便受取所外三所設置

遞信省告示
第一百五號

武藏國東京本所柳原町攝津國兵庫聚柳原町郵便受取所廢止

遞信省告示
第一百六號

攝津國神戸郵便局及ヒ電信局合併

遞信省告示
第一百七號

肥後國船島郵便局外四局廢止

遞信省告示
第一百八號

播磨國姫路郵便局外三局電信爲替事務開施

遞信省告示
第一百九號

事故アリ配達シ能ハサル電報揭示方

遞信省告示
第二百一號

米國若シハトレス海狹ヲ經由シテチーストヲリヤ外五國ヘノ郵便稅及ヒ書留手數料改正

遞信省告示 第二百十四號	十一月十六日	加賀松郵便貯金預所ヲ廢シ其貯金事務ハ高松郵便局 ヲシテ繼續取扱ハシム
遞信省告示 第二百十五號	十一月十六日	筑前國大島肥前國島原郵便貯金預所ヲ置キ兩郵便局貯 金事務ヲ繼續取扱ハシム
遞信省告示 第二百十六號	十一月十八日	伊勢國四日市南町郵便受取所設置
遞信省告示 第二百十七號	十一月二十二日	近江國長濱郵便局及ヒ電信局合併
遞信省告示 第二百十八號	十一月二十五日	長門國埴牟浦彦島本郵便局改稱
遞信省告示 第二百二十號	十一月二十八日	肥前國廻リ津郵便局改稱
電 信		
遞信省告示 第九十四號	十一月四日	磐城國平電信局設置
全 告 示 第二百十九號	十一月五日	安藝國吳電信局設置
雜 業		
大藏省訓令 第六十五號	十一月五日	人民所持ノ印紙賣買方ヲ定ム
		十二丁

國 稅

大藏省告示 第五百一號	十一月一日	鹿兒島國庫金出納所限之城出納支所位置ヲ改ム
全 告 示 第五百十三號	十一月一日	第一百七國立銀行東京支店閉鎖
全 告 示 第五百十六號	十一月一日	松江國庫出納所福井出納支所設置
全 告 示 第五百六十一號	十一月二十六日	預金取扱手續中追加更正
地 方 稅		
勅 令 第五十六號	十一月四日	地方稅ニ關シ寄附スル金穀物件及雜收入ハ府縣會ノ議 定ニ付セシム
內 務 省 令 第三號	十一月五日	地方稅支辨ニ係ル道路ノ並木枯損木拂代金寄附金額等 件整理方及ヒ該收入豫算議案並ニ精算報告書式中改正
內 務 省 令 第四號	十一月八日	勅令第五十九號ヲ以テ大坂府ヲ分割シ奈良縣ヲ置カレ タルニ付テハ該府縣會議員撰舉及地方稅分割方等ノ手 續ヲ定ム
		二十六丁
		二十一丁
		二丁

區町村費

宮城縣訓令 第十九日 區町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關シ寄附スル金數物
件ノ使用法ヲ示ス 二十一丁

出納 公債

農商務省訓令 第四十一日 當省所管第二部歲入免許及手数料鑛山借區稅決算證明
式ヲ定ム 六丁

宮城縣訓令 第十一日 歲入取扱順序第十六條ニ據リ歲入徵收ノ委託ヲ受ケタ
ル場合ニ於テハ其發付スル納額告知書及納付書ニ某廳
主管人ノ印ヲ押捺スヘシ 九丁

內務省訓令 第十一日 拂出金精算上殘金ヲ生スルトキ納付方 二十五丁

大藏省告示 第二十一日 七分利付金祿公債元金償還抽籤金額

俸給旅費

內務省訓令 第十七日 蠶種検査員等一時限傭人ノ者解傭ノトキ旅費支給方 二十五丁

警察

縣令 第十五日 屋外ニ於テ公衆ノ集會ヲ催フシ又ハ多數列伍運動ヲ爲
スモノ、處分法ヲ定ム 十丁

縣令 第十六日 凡ソ市場ヲ常設シ營業ヲ爲サントスルモノ、願方ヲ示
ス 十二丁

縣令 第十七日 彫刻印刷取締規則ヲ定ム 十二丁

縣令 第十七日 明治十七年(八月)甲第八十號布達第二條ヲ更正シ第二
號書式ヲ刪除ス 十四丁

縣令 第十九日 乘合馬車取締規則第十四條ニ但書ヲ刪除ス 二十丁

宮城縣訓令 第十九日 明治十八年三月丙第十號貸座敷取締規則中第九條第十
條ヲ改ム 二十三丁

雜類

農商務省訓令 第五十一日 民有森林ノ內水源涵養土砂扞止風潮除額雪止等國土ノ
保安ニ關スル箇所取調報告方 八丁

大藏省告示 第九十一日 金祿公債證書紛失起業公債證書所在不分明

全告 第九十一日 金祿公債證書發見

全告 第九十一日 起業公債證書發見

全 第百五十七號	示	十一 二月	金祿公債證書所在不分明
全 第百五十八號	示	十二 二月	金祿公債證書盜難
全 第百五十九號	示	十五 五月	金祿公債證書所在不分明
宮城縣訓令 第八十六號		廿六 六月	本年三月訓令第二十五號農商通信規則中第五十九港灣 及河岸場出入船舶表取調差出スヘシ
			二十六丁

○司法省令甲第三號

明治二十年十一月二日

明治十九年(十二月)當省令甲第四號登記所位置管轄區域表中左ノ通改正ス

名古屋始審裁判所管內津島登記所管轄ノ松山中島村ヲ岐阜始審裁判所管內日原登記所ノ管轄ニ屬セシメ岐阜始審裁判所管內八神登記所管轄ノ拾町野村馬飼村三拾町村東加賀野井村ヲ名古屋始審裁判所管內下祖父江登記所ノ管轄ニ屬セシム

○宮城縣訓令第七十七號

明治二十年十一月二日

郡 區

陸軍召集條例第六十五條ニ據リ差出スヘキ本年十一月十日ヨリ來二十一年五月九日ニ至ル召集旅費概算表ハ近衛後備軍艦員兵員ヲ本籍所管鎮臺ニ召集スルモノトシ其人員及旅費金ハ鎮臺後備軍艦員兵員ニ合シ調製スヘシ

○閣令第二十二號

明治二十年十一月二日

明治十九年(五月)閣令第十二號中福岡大林區署管轄區域福岡縣ノ下ニ「佐賀縣」ノ三字ヲ追加ス

○告示第五十六號

明治二十年十一月五日

明治十九年度地方稅支出中不足補充金徵收法及二十年度收支豫算中追加ノ議決ヲ要スル爲メ來

ル十八日ヨリ臨時縣會ヲ開キ該會閉會ノ翌日ヨリ本年通常縣會ヲ開ク

○勅令

明治二十年十一月四日

朕地方税ニ關スル寄附及雜收入ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五十六號

第一條 地方税ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關シ寄附スル金穀物件ハ府縣會ノ議決ヲ經テ寄附者ノ指定シタル費途又ハ使用ニ充ツヘシ

第二條 地方税ノ雜收入ハ他ノ收入豫算ト同シク府縣會ノ議定ニ付スヘシ

第三條 本令ハ明治二十一年度ヨリ施行ス

○內務省令第三號

明治二十年十一月五日

一地方税ノ支辨ニ係ル道路ノ並木枯損木拂代金ハ明治二十一年度ヨリ該年度地方税土木費雜入ニ組入レ並木植續費ハ該土木費ヨリ支出スヘシ

一地方税ヲ以テ支辨ス可キ事業ニ關スル寄附金ノ支出豫算議案及精算報告書式ハ明治二十一年

度ヨリ警察費國庫下渡金ノ例ニ準シ寄附者指定ノ費目ニ於テ地方税ト寄附金ト內譯ヲ爲ス可シ

一物件ノ寄附又ハ年賦寄附等ニシテ通常豫算ニ編入シ難キモノハ便宜別議案ヲ以テ議定ニ附スルコトヲ得

一明治十五年(十二月)內務大藏兩省乙第七十二號達地方税收入豫算議案並精算報告書式中戸數割ノ次合計以下明治二十一年度ヨリ左ノ通改正ス

收入豫算議案書式

一金

雜收入

內譯

金	警察費雜入
金	土木費雜入
金	何費雜入
金	何費雜入

一金	前々年度ヨリ繰越金
一金	國庫下渡金
一金	國庫補助金
一金	寄附金
合計金	
收入精算報告書式	
豫算金	○印ハ朱書
一金	雜収入
内譯	
○豫算金	警察費雜入
金	
○豫算金	土木費雜入
金	

○豫算金	何費雜入
金	
○豫算金	何費雜入
金	
金	前々年度分何稅延納
○豫算金	前々年度ヨリ繰越金
一金	
○豫算金	國庫下渡金
一金	
○豫算金	國庫補助金
一金	
○豫算金	寄附金
一金	

豫算金

合計金

○内務省訓令第百四十七號

明治二十年十一月五日

府縣(沖繩縣ヲ除ク)

區町村公共ノ經濟ニ屬スヘキ共有物ニ關スル事件ハ渾テ區町村會ニ於テ評決セシムヘシ

但本文ニ抵觸スル從前ノ指令訓令ハ取消ス

○農商務省訓令第百十六號

明治二十年十一月四日

北海道廳 府縣

當省所管第二部歳入免許及手数料鑛山借區稅決算証明式別冊ノ通相定メ候條十九年度以降右ニ照準調製シ毎年十二月十五日迄ニ當省ヘ差出スヘシ

但別冊ハ別ニ頒ツ

○宮城縣訓令第百七十八號

明治二十年十一月八日

郡 區

陸軍召集條例第百五十五條ニ據リ當廳ヘ差出スヘキ召集旅費概算表之儀ニ郡管轄ノ郡役所ニアリテハ本年(六月)陸軍省訓令甲第六號雛形ニ準シ每郡チ一表ニ調製差出スヘシ

○勅令

明治二十年十一月五日

朕試補及見習ノ待遇並ニ任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五十七號

本年七月(勅令第三十七號)文官試験試補及見習規則ニ據リ試補及見習ヲ命セラレタル者ノ待遇ハ試補ヲ委任トシ見習ヲ判任トス

同則ニ據リ試補及見習ヲ本官ニ任用スルニハ試補ハ委任官四等以下トシ見習ハ判任官五等以下トス

○勅令

明治二十年十一月五日

朕教官技術官ノ資格ヲ有スルモノヲ以テ行政官ニ任用スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五十八號

各般ノ學務及特別ノ學術技藝ニ關スル行政官ハ教官技術官ノ資格ヲ有スル者ヲ以テ之ニ任用スルコトヲ得

閣令第二十三號

明治二十年十一月七日

本年(七月)勅令第三十七號文官試驗試補及見習規則第二十九條在職判任官ニシテ直ニ本官ニ任
スルヲ得ル者ハ在職三年ニ滿ル者ニ限ル若三年ニ滿サル者ハ先試補ニ任用シ前後通算シテ三年
ニ滿ルヲ待テ本官ニ任スルモノトス

海軍省令第二十八號

明治二十年十一月八日

明治十九年(七月)海軍省省令第六十八號海軍軍樂員條例第十三條願書式中何箇年期ノ四字ヲ削
除ス

農商務省訓令第十七號

明治二十年十一月五日

府縣(沖繩縣ヲ除ク)

民有森林ノ内水源涵養土砂扞止風潮除額雪止等ノ如キ國土ノ保安ニ關係アル箇所左ノ雜形ニ據
リ取調來明治二十一年五月三十一日限報告スヘシ

國土ノ保安ニ關スル民有森林表

○ハ朱書

種類	國郡	村箇所	段別	樹種	地價	所有主	直接ニ利害ノ及フ區域	取締	ニ關スル見込
國	郡	村	伐	木	下草刈	取	礦物	土	石堀採

水源	涵養	土砂	扞止	雜木	何某	何村	輪伐法ヲ以テ	刈取モ	掘採スレハ
							スレハ害ナシ	害ナシ	害アリ
							○始終禁セサ	○刈取	○堀採スルモ
							レハ害アリ	害アリ	害ナシ

朱字ハ記載例ヲ示スノミ

一箇所ノ地ニシ其内ノ幾分ノミ國土ノ保安ニ關スル森林ナルキハ其部分ノミヲ本表ニ掲クヘシ

宮城縣訓令第七十九號

明治二十年十一月十日

郡 區

歳入取扱順序第十六條ニ據リ歳入徵收ノ委託ヲ受タル場合ニ於テハ其發付スル納額告知書及納
付書ニ「某廳主管」ノ印ヲ押捺スヘシ

○勅令

明治二十年十一月四日

朕奈良縣設置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五十九號

奈良縣ヲ置ク

縣廳位置

大和國添上郡奈良

管轄

大和國一圓

○宮城縣訓令第八十號

明治廿年十一月十二日

郡區町村

區町村公共ノ經濟ニ屬スヘキ共有物ニ關スル事件ハ自今渾テ區町村會ニ於テ評決セシムヘシ

○縣令第八十號

明治二十年十一月十五日

屋外ニ於テ公眾ノ集會ヲ催シ又ハ多數列伍運動ヲ爲ス者ハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス會主又ハ幹事等ヲ定メ會同ノ場所通行スヘキ線路並ニ年月日ヲ詳記シ會同二日前ニ其會主又ハ幹事等ヨリ所轄警察署ニ届出認可ヲ受ク可シ但官立公立學校ノ舉行ニ係ルモノ又ハ婚儀葬式神佛儀

式等從前ノ慣行ニ依ルモノハ此限ニアラス

前項ノ規程ニ違背シタル者ハ會主又ハ幹事若シ會主幹事ヲ定メサルトキハ會員ヲ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○陸軍省令第十五號

明治二十年十一月十四日

本年省令第一號陸軍教導團定員表砲兵大隊ノ區畫ヲ左表ノ通改メ工兵中隊ノ區畫中小隊長「四」ヲ「二」ニ中隊附下士「二十四」ヲ「十二」ニ改ム

砲兵大隊	
長 中隊長	
副官 一	武器係 一
小隊長 九	中隊附 三
計官 一	
下副官 一	
中隊附 五十四	小隊副長 三
給養係 三	書翰係 一
喇叭長 一	炊事係 三
武器係 三	書記 一
馬丁取締 一	一二三等書記 一
喇叭卒 百	
內 百二十九	內 二百五十八
喇叭 六	喇叭 十三
二百二十九	三百五十八
百六十一	

○縣令第八十一號

明治廿年十一月十六日

凡ソ市場ヲ常設シ營業ヲ爲サントスル者ハ其願書ニ設置ノ方法及ヒ地所ノ圖面ヲ添ヘ區戶長ノ
與書ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ願出ツ可シ

○大藏省訓令第六十五號

明治二十年十一月十五日

北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

左ノ場合ニ於テ人民ノ所持スル印紙ハ其同郡區内ニ在ル印紙類賣捌人ニ之ヲ賣渡スコトヲ得ル
モノトス但此場合ニ於テハ印紙類賣捌人ヲシテ其買取りタル事由及ヒ賣渡人ノ住所氏名ヲ帳簿
ニ詳記シ置カシムヘシ

一 印紙類賣捌人ニシテ印紙類賣下賣捌規則第十七條ノ或項目ニ該當スルトキ

一 印紙ヲ所持スル人民ニシテ明治十七年大藏省第七十三號達ノ場合ニ該當スルトキ

一 何人ニ限ラス遺失印紙ヲ拾得タルモノニシテ成規ニ據リ當該官署ヨリ其拾得印紙ヲ給付セ

テレタルトキ

○縣令第八十二號

明治廿年十一月十七日

彫刻印刷取締規則左之通相定メ本年十二月一日ヨリ施行ス

彫刻印刷取締規則

第一條 本則ニ於テ彫刻ト稱スルハ印章木版銅版ノ彫刻活字及金屬印章ノ鑄造ヲ云ヒ印刷ト稱
スルハ木版銅版活版石版等ノ彫刻物ニ依リ印刷スルモノヲ云フ

第二條 前條ノ營業ヲ爲サントスル者ハ其願書ニ業跡ノ種類彫刻印刷ノ場所及ヒ職工其他雇人
ノ族籍氏名年齢等ヲ詳記シ戶長(區ハ區長)ノ與書ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ願
出ツ可シ

第三條 廢業移轉及ヒ改氏名等ノ節ハ戶長(區ハ區長)ノ與書ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ
縣廳ニ願出ツ可シ

第四條 職工其他ノ雇人ニ増減アルトキハ速ニ族籍氏名年齢等ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ヘ
届出ツヘシ

第五條 營業者ハ注文帳ヲ製シ其依頼者ノ住所氏名注文ノ品柄員數及物品交附ノ年月日等ヲ其
都度記入シ置キ翌月五日迄所轄警察署又ハ分署若ハ巡查派出所ニ差出シ檢査ヲ受ク可シ

第六條 官印ノ彫刻又ハ尋常ナラサル印刷物ノ依頼ヲ受ケタルトキハ速ニ警察官吏ニ申告ス可

但シ官署ヨリ公然ノ命ヲ受ケタルモノハ此限リニアラス

第七條 依頼者ノ氏名ニ異ナル印章ノ彫刻又ハ現在印章ノ再刻ヲ求ルモノアルキハ其旨ヲ注文帳ニ記入シ置ク可シ若シ依頼者ノ舉動不審ノモノト思料シタルトキハ速ニ警察官吏ニ申告ス可シ

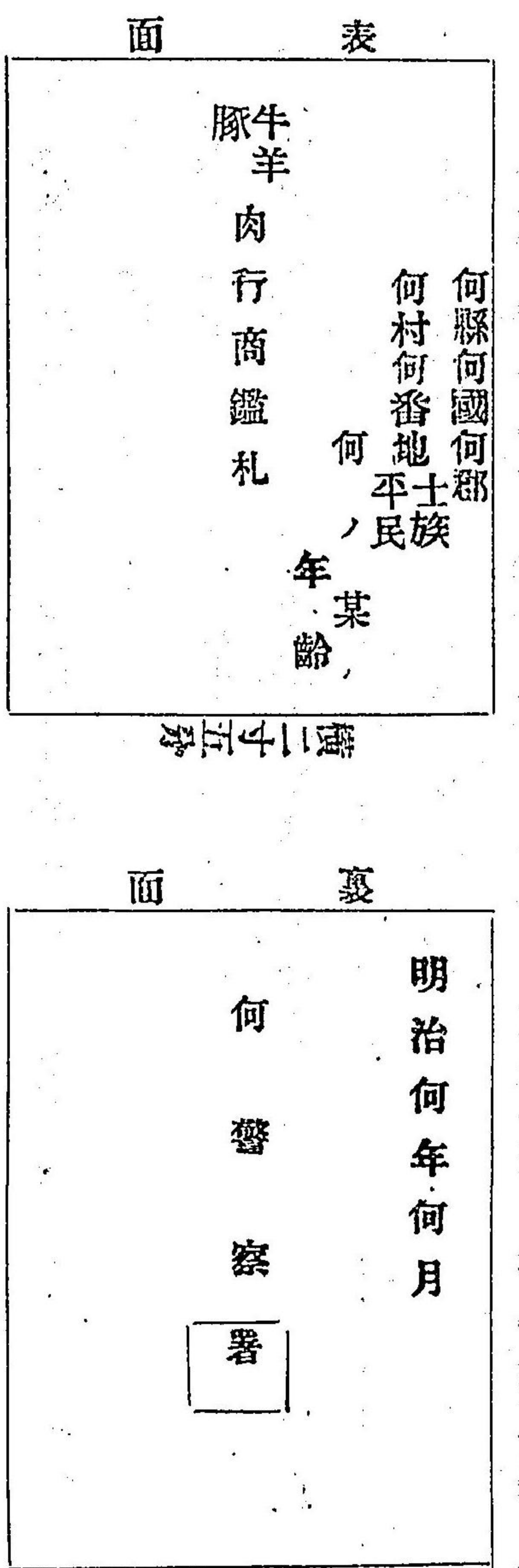
第八條 第二條第三條第四條第五條ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

第九條 第六條第七條ヲ犯シタルモノハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

○縣令第八十三號 明治廿年十一月十七日

明治十七年(八月)甲第八十號布達第二條左ノ通更正シ第二號書式ヲ刪除ス

第二條 牛羊豚賣肉行商ヲ爲サントスル者ハ左式ノ木札ヲ製シ所轄警察署又ハ分署ニ願出檢印ヲ受クヘシ但廢業シタル時ハ檢印ヲ返納スヘシ



堅三寸五分

○宮城縣訓令第八十一號 明治二十年十一月十七日 郷區町村

避病院及吐瀉物汚穢物埋燒場設置手續ヲ定ムルノ左ノ如シ

避病院及吐瀉物汚穢物埋燒場設置手續

第一條 避病院ノ位置ハ往來繁多ナル道路及河流井泉ニ接近セス且ツ人家ヲ距ルノ百間以上ニシテ恒風ノ上ニアラサル地ニ撰ニ設置スヘシ

第二條 傳染病者ノ吐瀉物汚穢物ヲ燒棄シ又ハ埋却スルノ地ハ耕宅地ニアラサル民有地ニシテ

前條ニ抵触セサル地ニ設クヘシ

第三條 燒棄場ハ地質鬆疎ナラサル地ニ適當ノ穴ヲ掘リ其周圍底部ニハ滲喰敵(厚サ三寸)ヲナシ且ツ雨水ノ壙内ニ注入スルヲ防クニ足ルヘキ構造ヲナスヘシ

第四條 戸長(區ハ區長)ハ所轄警察署長又ハ分署長ト協議シ毎町村又ハ數町村ニ於テ豫メ第一條ニ該當スル地ヲ撰定シ其地坪及地種地目ヲ記載シ繪圖面ヲ添ヘ郡長ヲ經テ願出ヘシ

第五條 避病院ハ常設保存ト一時使用トノ區分ヲ記シ建築圖面ヲ添ヘ戸長(區ハ區長)ハ郡長ヲ經テ願出ヘシ

第六條 傳染病流行ニ際シ空屋ヲ避病院ニ假用セントスル場合ニ於テハ戸長(區ハ區長)ハ所轄警察署長又ハ分署長ト協議シ郡長ニ具狀シテ之ヲ設クルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ郡長ハ即時之レヲ縣廳ニ申報スヘシ

第七條 急劇ノ場合ニ於テ吐瀉物汚穢物燒棄場又ハ埋却場ヲ設ケントスルキハ第六條ノ手續ニ依リ之ヲ執行スルヲ得此場合ニ於テハ郡長ハ其地坪及地種地目ヲ記載シ繪圖面ヲ添ヘ速カニ申報スヘシ

第八條 避病院ヲ開閉セントスルキハ戸長(區ハ區長)ハ所轄警察署長又ハ分署長ト協議シ郡長ヲ經テ速ニ申報スヘシ

○縣令第八十四號

明治廿年十一月十七日

針灸術營業取締規則ヲ改ムルノ左ノ如シ

針灸術營業取締規則

第一條 管内ニ於テ針灸術ヲ營業スル者ハ免許鑑札ヲ有シタルモノニ限ル

但開業醫ニシテ針灸術ヲ爲スモノモ本條ニ依ルヘシ

第二條 免許鑑札ヲ得ントスルモノハ左ノ書式ニ依リ其師家ノ證書ヲ添ヘ郡區役所ヲ經テ縣廳ニ願出ヘシ

但師家死亡シ其證書ヲ得難キ場合ニ於テハ同業者二名以上ノ證明書ヲ添付スルモノトス

第三條 醫師治療中ノ患者ニ對シテハ其主治醫ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ施術スヘカラス

第四條 患者ニ藥劑ヲ投シ藥法ヲ指示シ又ハ神佛ノ加護等ヲ唱ヘ或ハ人ヲ勸誘シテ施術スヘカラス

第五條 免許鑑札ハ貸借スルヲ得ス

第六條 營業ノ爲メ外出スルハ必ズ鑑札ヲ携帯スヘシ

第七條 免許鑑札ヲ毀損亡失シ又ハ氏名ヲ交換シタルトキハ其事由ヲ具シ戸長ノ奥印ヲ受ケ郡區役所ヲ經テ縣廳ヘ願出書換ヲ受クヘシ

第八條 轉籍又ハ移住スルハ戸長及郡區役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ヘシ

第九條 廢業死亡又ハ管外ヘ轉籍留スルハ前條ノ手續ヲ經テ免許鑑札ヲ縣廳ヘ返納スヘシ

第十條 針灸術營業者其業務ニ關シ犯罪若シハ不正ノ行爲アルトキハ其營業ヲ差止メ免許鑑札ヲ返納セシムヘシ

但本條ノ場合ニ於テ三ヶ月以上ヲ經過シ再ヒ願出ルハ其情狀ニ依リ更ニ免許鑑札ヲ下附スルコアルヘシ

第十一條 針灸術營業者其業務外ノ犯罪ニシテ重禁錮以上ノ刑ニ該ルモノアルハ其營業ヲ差止メ免許鑑札ヲ返納セシムヘシ

第十二條 第一條第三條第四條第五條第六條ヲ犯シタルモノハ二日以上五日以下ノ拘留又ハ五

十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

書式

針灸術營業免許鑑札御下渡願

私儀針灸術營業仕度候ニ付免許鑑札御下渡相成度別紙履歷書及師家某ノ證明書相添此段奉願候也

何郡(區)何町(村)番地(借舎)(寄留)

族籍

氏名印

宮城縣知事宛

前書ノ通り願出ニ付奥印仕候也

年月日

區戸長氏名印

履歷書

何郡(區)何町(村)番地(借舎)(寄留)

族籍

氏

名

何年何月生

一何年何月ヨリ何年何月マテ何ノ誰ニ隨ヘ何術修業
右ノ通相違無之儀也

右

年月日

氏

名印

○宮城縣訓令第八十二號

明治二十年十一月十八日

郡區町村

租税不納ニ係ル物件ニ關シ買賣讓與等總テ所有權ノ移轉ニ就キ登記ノ有無ヲ取調フルトキハ其
物件所在地所管ノ登記所ヘ照會取調ヘシ

○縣令第八十五號

明治二十年十一月十九日

乘合馬車取締規則第十四條ニ左ノ但書ヲ追加ス

但車体ノ構造其他ノ屬品堅牢ナルモ其構造ノ摸樣ニ依リ木製ノ屋根ヲ裝置スルコト能ハサルモ

ノハ此限ニアラス

○宮城縣訓令第八十三號

明治二十年十一月十九日

郡區町村

區町村費ヲ以テ支辨スヘキ專業ニ關シ寄附ル金穀物件ハ明治二十一年度以降區町村會ノ議決
ヲ經テ寄附者ノ指定シタル費途又ハ使用ニ充ツヘシ

○內務省令第四號

明治二十年十一月十八日

大坂府

奈良縣

勅令第五十九號ヲ以テ大坂府ヲ分割シ奈良縣ヲ置カレタルニ付テハ該府縣會議員撰舉及地方稅
分割方等ノ手續左ノ通之ヲ定ム

第一條 府縣會議員ハ各改選ノ手續ヲ爲シ且常置委員ヲ撰舉ス可シ但議員ノ數ハ知事之ヲ定メ

次回改選ヨリ會議ニ於テ定ム可シ

第二條 地方稅ノ收出豫算ハ各更ニ會議ヲ開キ之ヲ議定ス可シ但本條議定前ニ於テ事務施行上
費用ヲ要スルハ舊府會ニ於テ議定セシ豫算ニ依リ假ニ其幾部ヲ徵收支出スルコトヲ得

第三條 地方稅ハ土地区民引渡前日迄ニ支拂タル實費ヲ引去リ殘額ハ徵收ノ歩合ニ依リ分割ス

可シ

第四條 地方稅經濟ニ係ル事件ハ總テ所在府縣ニ於テ管轄スルモノトス

第五條 前年度地方稅收出決算ニ至リ殘餘アルハ該年度各實收入ノ割合ヲ以テ分割ス可シ

第六條 前條決算ノ場合ニ於テ不足ヲ生シタルトキハ該年度各實收入ニ割合地方稅規則第五條

第二項ニ依リ之ヲ補充ス可シ但一地方ニ屬スル費額(府縣廳舎及監獄建築修繕費並病院費ノ類)ノ不足ハ各其所屬ノ府縣ニ於テ之ヲ補充ス可シ

第七條 備荒儲蓄金ハ土地人民引渡前日迄ノ支出額ヲ引去リ其殘額ハ從來徵收ノ歩合ニ依リ分割ス可シ

第八條 在監人ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ分割ス可シ

已決囚ハ其裁判宣告ノ地

未決囚ハ其裁判管轄ノ地

懲治人ハ其本籍

別房留置其人ハ留置ノ監獄

○宮城縣訓令第八十四號 明治二十年十一月十九日 郡 區

明治十八年(三月)丙第十總貸座敷取締規則中第九條第十條ヲ改ムルハ左ノ如シ

第九條 渡世者ハ左ノ書式ニ從ヒ遊客人名簿ヲ調製ス可シ

第十條 渡世者ハ別紙甲乙二表ヲ製シ甲表ハ毎日午後十二時迄ニ乙表ハ毎日午前九時迄ニ所轄警察署又ハ分署巡査派出所ニ差出ス可シ

但午後十二時后ニ係ル遊客ハ其都度甲表ヲ製シ差出ス可シ

客帳人名簿書式

番 號	氏 名	年 齡	職 業	族 籍	住 所	容貌特徵 其他事故	到着日時	出發日時

甲表々式

明治何年 何月何日 遊客届		何府縣何町村番地族籍				
氏名		樓名 何 某 印				
第何號		住 所	年 齡	職 業	到 着 日 時	容貌特徵其他事
乙表々式		何府縣何郡區何町村番地族籍				
明治何年 何月何日 出發届		樓名 何 某 印				
氏名						

到着番號

出發日時

○宮城縣訓令第八十五號

明治二十年十一月十九日

郡區町村

本年(十月)訓令第七十五號陸軍定時演習召集事務取扱細則第一條第十條ノ下第十九條ノ四字ヲ追加ス

○內務省訓令第四十八號

明治二十年十一月十七日

府 縣

蠶種検査員等ノ如キ一時限リ傭人ノモノ解傭ノトキハ本年二月訓令第九號ニ準シ旅費支給スヘシ

○內務省訓令第四十九號

明治二十年十一月十八日

府縣(沖繩縣ヲ除ク)

尋常師範學校附屬小學校授業料ハ本年勅令第五十六號ノ規定ニ據リ地方稅一般ノ雜收入ト混淆スヘカヲサルモノニ付右授業料ノ收支豫算ハ別議案ヲ以テ府縣會ノ議定ニ付スヘシ

○內務省訓令第五十號

明治二十年十一月十九日

警視廳 府縣 築治監

明治二十年(十月)內務省訓令第四十三號ニ據リ拂切リタル金額精算上殘餘ヲ生スルトキハ直ニ

其年度ノ第二部歳入ノ納付スヘシ

○宮城縣告示第五十七號

明治二十年十一月二十五日

昨廿四日臨時縣會ヲ閉ツ

○宮城縣訓令第八十六號

明治二十年十一月二十六日

郡區

本年(三月)訓令第二十五號農商通信規則中第五十九港灣及河岸場出入船舶表之儀本年一月ヨリ十月マテ之分取調來ル十二月五日迄ニ差出シ自後ハ毎月調査シ翌月五日限り差出ス可シ

○海軍省令第二十九號

明治廿年十一月二十五日

本年(一月)省令第三號海軍下士卒家族扶助金給與規則第九條ニ左ノ通但書ヲ追加ス
但服役滿期ニ至リ再役シタル當月ハ十五日前後ヲ以テ區分セス舊額ヲ給シ其翌月ヨリ新額ヲ給ス

○大藏省告示第六十一號

明治二十年十一月二十六日

明治十八年(六月)當省第八十八號告示預金取扱手續第二條ニ但書ヲ追加シ第二十一條ヲ更正シ來ル二十一年一月ヨリ施行ス

但本年十二月中迄ニ金貨預ケ入ノ分ニ對シ其期限中ハ從前ノ通タルヘシ

第三條

但金貨ニ限り金額十圓以上ヲ定期預ケ金トシテ同種類ヲ以テ拂戻シテ得ルモノトス

第二十一條 金貨ヲ預ケ入同種類ヲ以テ拂戻ヲ要スル分ト雖モ利子ハ有合ノ通貨ヲ以テ支拂

フモノトス

○內務省告示第七號

明治二十年十一月二十八日

東京ヨリ奈良縣ニ達スル國道路線左ノ通相定ム

四十九號

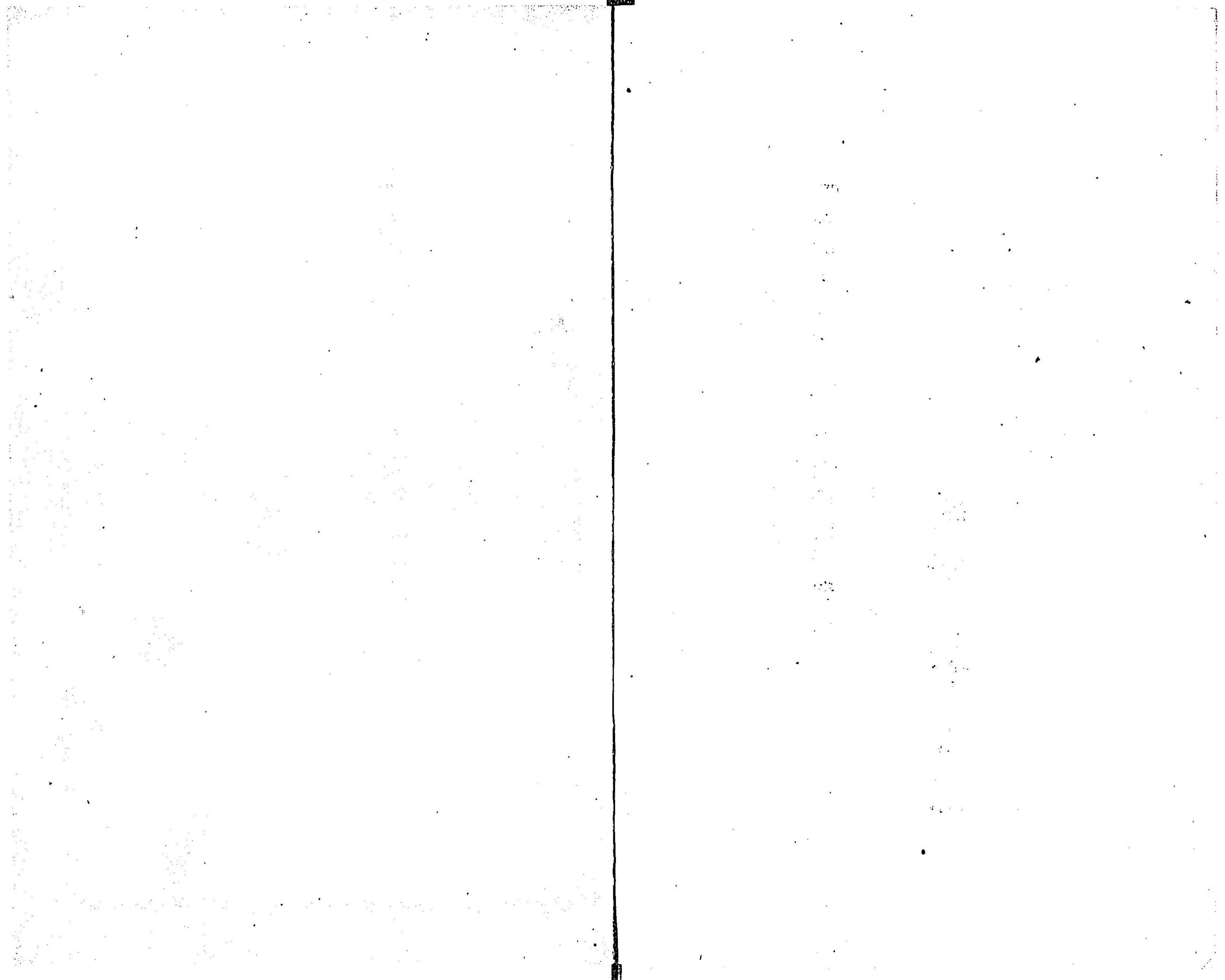
東京ヨリ奈良縣ニ達スル路線

地名	日本橋	管轄名	國名
二號			
大樽 京都 間髭茶屋町	京都府	山城	
六地藏	同	同	

奈	木	玉	長	伏
良	津	水	池	見
奈	同	同	同	同
良				
縣				
大	同	同	同	同
和				

明治十九年三月二十六日出版御届
 大正一年一月十六日 刺成

宮城縣文書課



217-99